

ウルシの収穫期と収穫可能本数の年次推移

1 研究のねらい

前報（岩手県林業技術センター成果速報NO.181）では収穫可能本数の年次推移を報告した。

従来は胸高直径10cmを目安に掻きとりを行ってきたが、今回は掻きとり試験の結果から収穫期を検討した。

2 試験地と方法

浄法寺試験地において、平成15～17年までの3年間で計225本について個体ごとに掻きとりを行い、収穫した生漆の重量を測定した。また、前報に準じて10aあたりの収穫可能本数を換算した。

3 結果

掻きとり試験の結果を図1に示した。胸高直径8cm以上では平均192gであり、従来の収穫目安の10cmと同等であった。胸高直径8cm以上では生漆収穫量が胸高直径が増加しても収穫量が増加している傾向は見られなかった。一方、胸高直径8cm未満では収穫量の平均は80.8gと極端に少なかったことから、収穫は胸高直径8cm以上が妥当と考えられた。

胸高直径8cm以上を収穫目安とした時の収穫可能本数を図2に示した。植栽後7年経過では3%、13年経過では80%の個体が収穫可能になった。収穫目安を胸高直径10cmとした場合に比べて、13年経過では13%掻きとり可能本数が増加した。

4 成果の活用

胸高直径8cm以上を収穫目安とすることで、収穫可能本数の増加が見込まれ、早期に更新を図ること

ができる。また、胸高直径8cm以下では極端に収穫量が少ないので、8cm以下では収穫しないよう留意する必要がある。

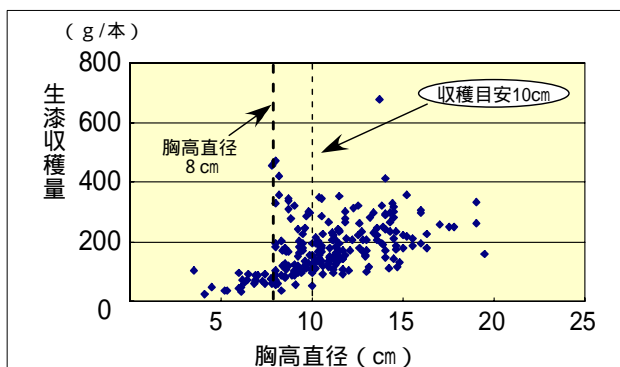
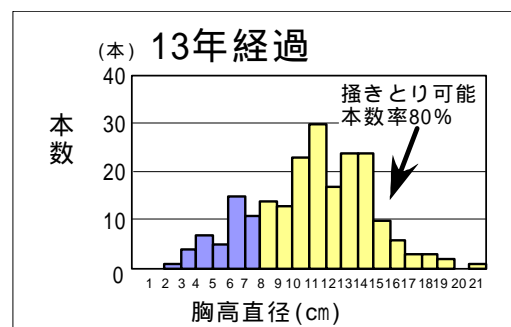
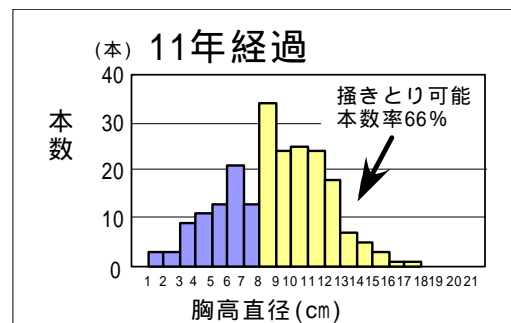
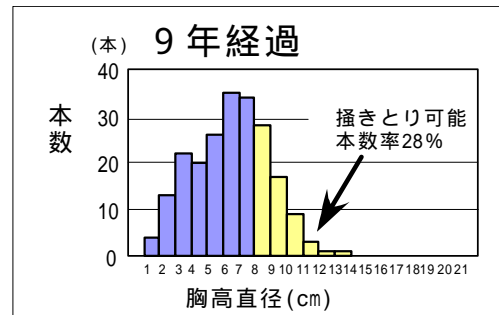
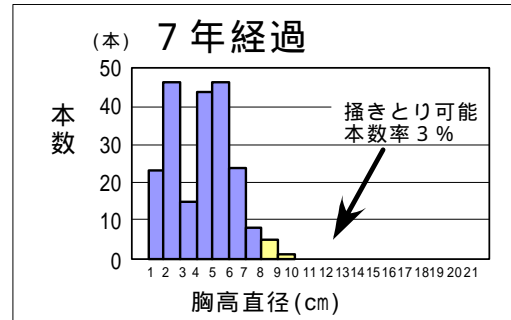


図1 胸高直径と収穫量の関係

図2 掻きとり可能本数の年次推移
（10aあたり250本植えの換算）

（担当 林産利用部 主任専門研究員 泉 憲裕）